

〔資料紹介〕

常福寺所蔵・三宅真軒撰『文字禪室必備書目』について

川邊 雄大

はじめに

筆者は近年、明治期の海外布教僧の活動について、主に明治初期における清国での東本願寺の活動に焦点をあてて調査研究している。これまでに東本願寺上海別院で布教活動を行っていた北方心泉^①については、常福寺（金沢市）に所蔵される、岸田吟香および圓山惇一の書翰・清国で出版された書籍販売目録・

『文字禪室必備書目』（以下、『必備書目』）等を用いて、帰国後の心泉が購入を希望する漢籍を選定して、上海の樂善堂支店や上海在住の圓山惇一から購入した経緯を明らかにした。^②

また、関係資料の調査を進めるうちに当時、第四高等中学校などで漢文科の教員をつとめていた三宅真軒^③と心泉の交流が明らかになってきた。拙稿「金沢時代の三宅真軒と北方心泉の交流」^④では、『必備書目』や「文字禪室記」^⑤が書かれた明治十八

年頃における金沢時代の真軒の学問について具体的に言及し、それが心泉の書学・字学に与えた影響について論じた。

ここに紹介する『必備書目』は、従来知られている、真軒自身の経学のための基礎資料として編纂した『真軒学経編目』^⑥とは異なり、書家である友人の心泉からの依頼によって編纂された書目である。そのため、採録範囲・典拠等が大きく異なるが、編纂目的を反映して小学・金石に詳細な点に本資料の特色がある。

『必備書目』は「小学」研究に必備の書名を列挙するだけでなく、それが採録されている叢書名や版の良し悪しについて記しており、実際の書籍購入の便に資するような内容を持っている。また書込みのなかには、真軒の書評が散見しており、本書目の一特徴をなすのみならず、真軒の学的傾向をもよく示している。

一 解題

I 書誌事項

本資料は『金沢・常福寺歴史資料目録』(一一二頁)に以下のように著録されている。

〔番号〕46〔題名〕文字禅室必備書目〔作者〕北方心泉〔製作年代〕不詳〔形態〕冊子(二十二枚)、上下巻二冊 手書野紙二十二葉綴り。〔寸法〕二七・九×一四・七〔備考〕文字学、金石学等に關する書物の購入予定メモと考えられる。二十五種三六〇余部を掲げる。一丁目の標題に「必備」としてあることからそれがうかがえる。

〔爾雅注疏〕等の書物と著者名、巻数等が記されている。これは「文字禅室書目備忘」の前身と考えられる。

本資料は「文字禅室必備書目上巻」・「文字禅室書目中巻(下巻之上・下巻之下・附録)」からなっており、上巻の題目のみ「文字禅室必備書目」となっている。これに關しては、はじめは「文字禅室書目」という名称であったものを、後に「必備」が附加された可能性が考えられる。

『必備書目』の作者については、従来は心泉撰とされてきたが、別稿⁹⁾でも述べたとおり、心泉撰『文字禅室書目備忘』とは筆蹟が明らかに異なり、文中に貞(真軒)から蒙師(心泉)に

質問している記述があることから、心泉撰ではなく、真軒の作成であることが分かる。

また製作年代についても、従来は未詳とされてきたが、東京での見聞が散見されるので、真軒が教員試験のために初めて上京した明治十八年(一八八〇)四月以降(おそらく餘り隔たらない時期に)に作成されたと推定される。

次に、筆者が調査した本書の書誌を記載する。

仮綴一冊、表紙・題簽なし、稿紙合計二十二丁。

書形二七・九×一四・七、鮮紅色双辺一六・六×一〇・九、格子一・一×〇・七、十行二十一字、単魚尾、白口(口に「只詩閣」とあり)。

その他、用箋の欄外や貼附された紙片には、真軒または心泉の手で書名や値段等が書込まれている。これにより、心泉が楽善堂などから書籍を購入する際に、清国書肆の販売目録¹⁰⁾と『必備書目』とを参考としていたことが分かる。また、真軒の各書に對するコメントは欄外にまではみ出して書かれており、一旦撰述後に書入が附加されたことが分かる稿本の形態を示している。この中には「東京ニテ・・」といったコメントも含まれ、真軒が東京で見聞したことが反映されている。

II 内容

本資料に著録される書名は小学・金石類を中心に採録し、通

計三百八十五部を著録している。

「文字禪室必備書目上巻」では「小学類」を「訓詁之属」・「字書之属」・「韻書之属」に分けて計百二十五種を著録している。ただし真軒が「小学類」の冒頭で「説文解字類各書、有故不録」と記述しているとおり、説文解字類は殆ど著録されていない。

「訓詁之属」(1~42)は『乾隆欽定四庫全書総目』(以下『四庫総目』)の経部「小学類(訓詁之属)」からおもに採録し、『書目答問』「爾雅之属」からは全てを、その他は「小学類」から適宜採録している。また、「字書之属」(43~81)は『四庫総目』「小学類(字書之属)」から順番にほぼ全部採録(43~74まで)し、「韻書之属」(82~125)は『四庫総目』巻四十二「小学類(韻書之属)」から順番にほぼ全部採録(82~115)されている。排列は基本的には『四庫総目』順により、『書目答問』に著録されているものは適宜『四庫総目』順に沿った順に直されている。

中巻では「金石類」(126~227)を百二種著録している。126~161までは、『四庫総目』「目錄類(金石之属)」を全て順番に採録しており、163~227までは『書目答問』にのみ見える書名を、その順番に排列している。なお末尾(228~236)に「以下雖非金石之書、考文正字必備之書、故却為可先備」とあり、金石類に属さない書を九種列举し

ているが、これらは『書目答問』の総集類から採録しており、同書の順番に排列している。

下巻之上では類書(237~244)を八種採録している。ここでの排列は『四庫総目』によらず、『書目答問』「類書第十三」所収の八種を同書の順番に従っている。

下巻之下では叢書(245~360)を百十六種著録し、末尾に「右扱『書目答問』而録之。此他尚多。如沈氏『昭代叢書』是又近來詳校精雕者多出当次録也。」とある通り、『書目答問』に著録されている殆どの叢書名を順番に排列している。

最後に附録(361~385)では主に詩集等を計二十五種著録しており、『四庫総目』集部・総集類および『書目答問』から適宜採録している。

以上のように基本的には、書名は『四庫総目』を基準にして、同総目の順番に配列し、書誌事項は『書目答問』に依拠していることが分かる。しかし『書目答問』に収録する書名や書誌事項を全て記載したわけではない。たとえば『書目答問』中の『爾雅義疏』について、「爾雅義疏二十卷 郝懿行 孫郝聯 薇校刻足本 沔陽陸氏学海堂本皆未足」とあるので、『必備書目』では『書目答問』の指摘に基づき、郝聯薇校刻足本は著録するものの、沔陽陸氏と学海堂本を著録していない。この他にも、『必備書目』中の『釈名疏證八卷補遺』では経訓堂本のみを著録しているが、これは『書目答問』中に「又璜川書屋本小

学彙函本無疏證」とあることを受けている。また『書目答問』中に著録する未刊本についても著録しておらず、「必備書目」の名に即した購入に資するための書目であることが分かる。

また『四庫総目』になく『書目答問』に見える書については、四庫分類に基づきながら『四庫総目』所収書の間に入らず、又は後に附するなどして適宜配列されている。

以上見てきたように、『必備書目』の編纂にあたっては、『四庫総目』と『書目答問』を利用していることは既に指摘したが、ことに『書目答問』は光緒二年（明治九・一八七六年）に初版が出たばかりの新刊本であり、著録した書籍の版種や所収叢書名等の情報は殆ど『書目答問』によっているし、『四庫総目』に著録されていない書名も多数採録している。

真軒が『四庫総目』と『書目答問』との記載内容を対照し検討していたことは、現在、無窮会天淵文庫に所蔵される真軒の書入れが残る『四庫総目』⁽¹¹⁾によっても確認できる。同書における真軒の書入れは小学・金石類の部分に比較的多く集中しており、『必備書目』編纂作業との関聯が推測される。⁽¹²⁾

なお、著録された書籍の中には和刻されたものも多くあるが、『必備書目』ではこれらを著録しておらず、後に欄外に書込まれた書入れに「官版三種」「和古本」等の記述が散見されるのみである。

二 翻刻

〔凡例〕このたびの翻刻にあたって、漢字表記については、原則として現在通行の印刷字体を用いたが、韻・韵等の異体字については出来るだけもとの表記を用いた。また、仮名遣いについては、原則として本文にしたがった。

※印は『四庫総目』に著録するもの、●は『書目答問』に著録するもの、無印は両書に著録しないもの、（ ）内は欄外に真軒の筆蹟で、「」は心泉の筆蹟で書込まれているものを示す。本来、欄外の○および◎印や一部の値段等は文頭にあるが、今回は便宜上すべて下に附した。破損・汚損等による難読箇所は□とした。また各書名の上に通し番号を附加した。なお、表記の誤りや異同等については校異で別途指摘した。丁数等については、（一〇）のように、◇内に算用数字で丁数を、括弧およびオ（表）・ウ（裏）を用いて表裏を標記した。文中に多見される「ヤ」および傍訓は原文の通り表記した。

校異にあたっては、無窮会真軒文庫蔵『書目答問』⁽¹³⁾と同天淵文庫蔵『四庫総目』⁽¹⁴⁾（文化二年官版・真軒旧蔵本）を用いた。

文字禅室 **必備** 書目上巻

小学類 説文解字類各書有故不録

訓詁之属

- 1※ ●爾雅注疏十卷 晉郭璞注 宋邢昺疏 十三經注疏之一
- 2 ●爾雅正義二十卷 清邵晉涵 原刻重刻通行本
- 3 ●爾雅義疏二十卷 郝懿行 孫郝聯薇校刻足本
- 4 ●爾雅補注二卷 翟灝 自刻本
- 5 ●爾雅郭注補正^マ□卷 戴鎰
- 6 ●爾雅漢注三卷 臧庸 問經堂叢書之一
- 7 ●爾雅古義十二卷 黃奭 漢學堂叢書之一
- 8 ●爾雅新義二十卷 宋陸佃 宋大樽本 粵雅堂叢書之一
- 9※ ●爾雅注三卷 鄭樵 津逮秘書之一 學津討原之一
- 10 ●爾雅積義十卷 積地以下四篇注四卷 清錢坫 錢氏四種之一
- 11 ●積宮小記一卷 積草小記一卷 積虫小記一卷 程瑤田 通藝錄四十二卷內
- 12 ●積祀一卷 董蠡舟
- 13 ●積服一卷 宋翔鳳 浮溪精舍叢書之一
- 14 ●積骨一卷 沈彤 果堂集之一 即果堂全集內
- 15 ●積繪一卷 任大椿 燕禧堂五種之一
- 16 ●積舟一卷 洪亮吉 卷施閣集之一 即洪稚存全集內^{又江北トイフ}
- 17※ ●方言十三卷 旧題漢揚雄 武英殿聚珍版書之一 抱經堂叢書之一 小学彙函之一
- 18 ●方言疏證十三卷 清戴震 戴氏遺書之一
- 19※ ●統方言二卷 杭世駿 杭氏七種之一 藝海珠塵之一
- 20 ●統方言補正一卷 程際盛 藝海珠塵之一
- 21※ ●積名四卷 漢劉熙 璜川書屋本 小学彙函之一
- 22 ●積名疏證八卷 補遺一卷 清江声 經訓堂叢書之一
- 23 ●同篆書本 經訓堂叢書之一
- 24 ●統積名一卷 江声 經訓堂叢書之一
- 25 ●廣積名^マ□卷 忘名氏 粵雅堂叢書之一
- 26※ ●廣雅十卷 魏張揖 明畢效欽刻本 高郵王氏刻本 小学彙函之一
- 27 ●廣雅疏證十卷 清王念孫 高郵王氏五種之一 (2才)
- 28※ ●匡謬正俗八卷 唐顏師古 雅雨堂叢書之一 藝海珠塵之一 小学彙函之一
- 29※ ●群經音辨七卷 宋賈昌朝 沢存堂四種之一 粵雅堂叢書之一
- 30※ ●埤雅二十卷 宋陸佃 顧棫校刻本 五雅之一
- 31※ ●爾雅翼三十二卷 羅願 格致叢書之一 學津討原之一
- 32※ ●駢雅七卷 明朱謀璋 明刻本
- 33 ●駢雅訓纂十六卷 清魏茂林 通行大字小字兩本 借月山房叢書之一
- 34※ ●字詁一卷 黃生 指海之一 字詁義府合刻本
- 35※ ●別雅五卷 吳玉搢 刻本
- 36 ●別雅訂五卷 許瀚 滂熹齋叢書之一

- 37 ●小爾雅疏八卷 王煦 鑿翠山房本
- 38 ●(倉頡篇三卷 孫星衍) 岱南閣叢書之一 (2ウ)
- 39 ●小爾雅訓纂六卷 宋翔鳳 浮溪精舍叢書之一
- 40 ●小爾雅義證十三卷 胡承洪 墨莊遺書之一
- 41 ●駢字分箋二卷 程際盛 藝海珠塵之一
- 42 ●拾雅二十卷 夏味堂 青照堂叢書之一
- 字書之屬
- 43※●急就篇四卷 漢史游 陳氏独抱廬本 玉海附刻本 津逮秘書之一 學津討原之一 小学彙函之一 (1ウ)
- 44※●急就章考異一卷 清孫星衍 岱南閣別刻行本
- 45 ●(小学鈎沈二十卷 任大椿) 山陽汪氏刻本
- 46※●(說文繫伝 四元 〇)
- 47※●(篆韻譜 五角 〇)
- 48※ (說文繫伝考異 五角 〇〇)
- 49※●重修玉篇三十卷 梁顧野王 宋陳彭年等 鄧顯鶴附札 記本 (二元 式元 〇〇) (3才)
- 50※ 干祿字書一卷 唐顏元孫 微波榭遺書之一 小玲瓏山館叢書之一 小学彙函之一 西安石本 (官板三種 〇)
- 51※●五經文字三卷五經文字疑一卷 唐張參 同上 同上 同上 (官板三種 〇)
- 52※●九經字樣一卷附九經字樣疑一卷 唐唐元度 同上 同
- 上 同上 同上 (官板三種 〇)
- 53※●汗簡三卷目錄叙略一卷 宋郭忠恕 汪啓淑刻本 王玄名一隅草堂本 (八角 〇)
- 54※●佩觿三卷 同上 单行本 沢存堂四種之一 (鉄華館叢書 十元 三元 〇〇)
- 55※●古文四声韻五卷 夏竦 汪啓淑刻本
- 56※●類篇四十五卷 司馬光 姚刻三韻之一 (四元 〇元 〇〇) (3ウ)
- 57※ 鐘鼎款識二十卷 薛尚功 既刻本 (六元 下一元二 〇)
- 58※●復古編二卷 張有 張氏刻本 安邑葛鳴陽刻本 (二元 二元 〇〇)
- 59※●漢隸字源六卷 婁機 汲古閣本 (三元 〇〇)
- 60※●班馬字類五卷附補遺 同上 玲瓏山館仿宋大字本 又仿宋中字本 涉聞梓旧之一 (一元)
- 61※●字通一卷 李從周 知不足齋叢書之一 藝海珠苑卷之一 (知不足 廿八元 〇〇)
- 62※●六書故三十三卷 戴侗 明刻本 (〇〇)
- 63※●龍龕手鑑四卷 遼僧行均 張丹鳴刻本 積藏本 (博物館 和古本 〇)
- 64※ 六書統二十卷 元楊桓 (〇〇)
- 65※ 周秦刻石積音一卷 吾邱衍 (〇〇) (4才)

- 66※●字鑑五卷」李文仲」 沢存堂四種之一
- 67※ 說文字原一卷六書正譌五卷」 周伯琦 〔二元 〇〇〕
- 68※ 漢隸分韻七卷」 佚名氏 〔〇〕
- 69※ 六書本義十二卷」 明趙撝謙
- 70※ 奇字韻五卷」 楊慎
- 71※ 古音駢字一卷統編五卷」 同上
- 72※ 俗書刊誤十二卷」 焦竑
- 73※ 字變四卷」 葉秉敬
- 74※ 篆隸考異二卷」 清周靖 〔〇〇〕
- 75※●隸辨八卷」 顧藹吉 〔□元 〇〕 〈4ウ〉
- 76●積古齋鐘鼎款識十卷」 阮元」 通行本 〔□元〕
- 77●筠清館金文□卷」 吳榮光」 自刻本 〔四元〕
- 78●繆篆分韻五卷」 桂馥 自刻本 〔二元〕
- 79●隸韻十卷考證二卷碑目考證一卷」 宋劉球 清翁方綱
秦恩復刻本 〔二元半〕
- 80●隸篇十五卷統十五卷再統十五卷」 漢翟去升 自刻本
〔□元〕
- 81●字林考逸八卷」 任大椿」 燕禧堂五種之一
- 韻書之屬
- 82※●原本広韻五卷 佚名氏」 明経廠大字本 小学彙函之一
- 83※●重修広韻五卷」 宋陳彭年等」 沢存堂四種之一 棟亭五
- 種之一 鄧頭鶴重刻本 小学彙函之一 張之洞云重修本勝
顧亭林潘稼堂朱竹垞皆云原本不足拋重修本為善 〈5才〉
- 84※●集韻十卷」 旧題丁度等」 棟亭五種之一 姚刻三韻
之一
- 85※ 切韻指掌圖二卷附檢例一卷」 司馬光
- 86※●韻補五卷」 吳棫」 連筠篔叢書之一
- 87※●韻補正一卷」 清顧炎武」 亭林遺書之一 借月山房叢書
之一 指海之一 連筠篔叢書之一
- 88※●附積文互註礼部韻略五卷貢舉条式一卷 宋丁度 棟亭五
種之一 姚刻三韻之一
- 89※ 增、修、校、正、押、韻、疑、五、卷」 歐陽德隆
- 90※ (增、修、互、註、礼、部、韻、略、五、卷) 毛晃 毛居正
- 91※●九經補韻一卷」 附考證一卷 楊伯岳 清錢侗」 汗筠齋
叢書之一 学津討原之一 粵雅堂叢書之一 〈5ウ〉
- 92※●五音集韻十五卷」 金韓道昭」 明刻本
- 93※●古今韻會舉要三十卷 元熊忠」 元刻明補本
- 94 古今韻會舉要小補三十卷」 明方日升
- 95※ 四声等子一卷」 元佚名氏
- 96※ 經史正音切韻指南一卷」 劉鑑
- 97※ 洪武正韻十五卷 明楽詔鳳等
- 98 洪武正韻牋十五卷」 楊時偉
- 99※ 古音叢目五卷古音彙要五卷古音餘五卷附録一卷」 楊慎

- 100 ※ 轉注古音略五卷」 同上 〈6才〉
- 101 ※ ●毛詩古音考四卷」 陳第」 學津討原之一
- 102 ※ 屈宋古音義三卷」 同上」 同上
- 103 ※ 御定音韻闡微十八卷」 清李光地等
- 104 ※ 欽定同文韻統六卷」 莊親王等
- 105 ※ 欽定叶韻彙輯五十八卷」 梁詩正等
- 106 ※ 欽定音韻述微一百六卷」 乾隆
- 107 ※ ●音論三卷」 顧炎武」 音學五書之一
- 108 ※ ●詩本音十卷」 同上」 同上
- 109 ※ ●易音三卷」 同上」 同上
- 110 ※ ●唐韻正二十卷」 同上」 同上 〈6ウ〉
- 111 ※ ●古音表二卷」 同上」 同上
- 112 ※ 古今通韻十二卷」 毛奇齡
- 113 ※ 易韻四卷」 同上」 西河合集之一
- 114 ※ ●唐韻考五卷」 紀容舒」 守山閣叢書之一 沔陽陸氏刻本
- 115 ※ ●古韻標準四卷四声切韻表四卷」 江永 貸園叢書之一
- 守山閣叢書之一 粵雅堂叢書之一 沔陽陸氏刻本
- 116 ●佩文詩韻五卷 礼部官本
- 117 ●官韻考異一卷」 清吳省欽」 藝海珠苑之一
- 118 ●音學弁微一卷」 江永」 借月山房叢書之一 指海之一
- 沔陽陸氏刻本
- 119 ●聲韻考四卷」 戴震 戴氏遺書之一 經韻樓叢書之一
- 貸園叢書之一
- 120 ●聲類表十卷」 同上」 戴氏遺書之一
- 121 ●六書音韻表二卷」 段玉裁」 附說文解字注
- 122 ●四声韻和表五卷」 洪榜」 刻本
- 123 ●古音諧八卷」 姚文田」 咫進齋刻本
- 124 ●聲類四卷」 錢大昕」 集外單行本 粵雅堂叢書之一
- 125 ●古韻論一卷」 胡秉虔」 滂熹齋叢書之一
- 計百二十餘種
- 小学類終
- 文字禪室書目中卷
- 金石類
- 126 ※ ●集古錄十卷 宋歐陽修 目五卷 歐陽棐」 三長物齋叢書之一
- 書之一
- 127 ※ ●金石錄三十卷 趙明誠 雅雨堂本 三長物齋叢書之一
- 128 ●(金石錄補二十七卷、統跋七卷、清葉奕包」 涉聞梓旧之
- 一)
- 129 ※ 法帖刊誤二卷、…、黃伯思、
- 130 ※ 法帖釈文十卷 次莊
- 131 ※ 籀史一卷 翟耆年
- 132 ※ ●隸釈二十七卷、隸統二十一卷 洪适 汪刻本 江甯洪刻本
- 附正誤
- 〈7才〉

- 133 ※ 絳帖平六卷 姜夔
- 134 ※ 石刻補叙二卷 曾宏文
- 135 ※ ●法帖譜系二卷 曹士冕
- 136 ※ 蘭亭考十二卷 桑世昌
- 137 ※ 蘭亭統考二卷 俞松
- 138 ※ ●宝刻叢編二十卷 陳思 翁刻本
- 139 ※ ●輿地碑記目四卷 王象之 滂熹齋叢書之一
- 140 ※ ●宝刻類編八卷 失名氏 劉喜海刻本
- 141 ※ ●古刻叢鈔一卷 明陶宗儀 平津館叢書之一 読画齋叢書
- 142 ※ 名蹟録六卷附録一卷 朱珪
- 143 ※ 吳中金石新編八卷 陳暉
- 144 ※ ●金薤琳琅二十卷 都穆
- 145 ※ 法帖釈文考異十卷 顧從義
- 146 ※ 金石林時地考二卷 趙均
- 147 ※ ●水墨鐫華六卷附録二卷 趙岫 知不足齋叢書之一
- 148 ※ 金石史二卷 郭宗昌
- 149 ※ 欽定校正淳化閣帖釈文十卷—— 乾隆
- 150 ※ 求古録一卷 顧炎武
- 151 ※ ●金石文字記六卷 同上 亭林遺書之一 借月山房叢書之一
- 152 ※ ●石經考一卷 同上 亭林遺書之一 借月山房叢書之一

〈8才〉

〈8ウ〉

- 153 ※ ●石經考一卷 萬斯同 省吾堂彙刻書之一
- 154 ※ 來齋金石考三卷 林侗
- 155 ※ 嵩陽石刻集記二卷 葉封
- 156 ※ 觀妙齋金石文考略十六卷 李光映
- 157 ※ 分隸偶存二卷 萬經
- 158 ※ 淳化秘閣法帖考正十二卷 王澐
- 159 ※ 竹雲題跋四卷 同上
- 160 ※ ●金石經眼録一卷 褚峻摹
- 161 ※ ●石經考異二卷「杭世駿 杭氏七種之一
- 162 ※ 蜀碑記一卷 宋王象之「金華叢書之一
- 163 ※ 寰宇訪碑録十二卷 清孫星衍邢昺「平津館叢書之一
- 164 ※ 寰宇訪碑録補十二卷—— 今人「自刻本
- 165 ※ 金石萃編一百六十卷 王昶 同補四卷 陸耀燾 同治間家刻本「〇□」
- 166 ※ 兩漢金石記二十二卷 翁方綱「蘇齋叢書之一「〇□」
- 167 ※ 潜研同金石目八卷 錢大昕「潜研堂全書之一
- 168 ※ ●金石学□卷「李遇孫
- 169 ※ 考古圖十卷統圖五卷釈音五卷 宋呂大防「通行本
- 170 ※ 宣和博古圖三十卷 王黼等「通行本
- 171 ※ 王復齋鍾鼎款識一卷 阮刻本

指海之一

〈9才〉

〈9ウ〉

- 172 ●嘯堂集古錄二卷 宋王休「明刻本」
 173 ●西清古鑑四十卷 乾隆「殿本」
 174 ●金石經眼錄一卷 褚峻圀 牛運震說
 175 ●金石苑□□卷 劉喜海「自刻本」 〈10才〉
 176 ●錢錄十六卷 乾隆「殿本 貞案在西清古鑑內」
 177 ●小蓬萊閣金石文字□□卷 黃易「自刻本」〔△〕
 178 ●隨軒金石文字八種□□卷「徐渭仁」自刻本〔△〕
 〔縮摹百漢碑硯石刻拓本〕
 179 ●葛氏金石十種 十元
 180 〔金素鉛素 50 唐已前ノ石刻拓本及鈎勒本一切〕
 181 ●古誌石華三十卷 黃本驥「三長物齋叢書之一」
 182 ●金石存十六卷 吳玉搢「道光刻本」
 183 ●潛研堂金石目跋尾二十五卷 錢大昕「潛研堂全書之一」
 184 ●金石三跋十卷 武億「授經堂集之一」
 185 ●鐵橋金石跋四卷 嚴可均「鐵橋漫稟內」
 186 ●平津讀碑記八卷統記一卷再統一卷三統二卷 洪頤煊「
 傳經堂叢書之一」 〈10ウ〉
 187 ●古墨齋金石文跋六卷 趙紹祖「統涇川叢書之一」
 188 ●秦漢瓦当文字一卷 程敦「乾隆丁未刻本」
 189 ●古金所見錄十六卷「祁書齡」嘉慶己卯刻本
 190 ●京畿金石考二卷 孫星衍
 191 ●江左石刻文編□□卷 韓履卿
 192

- 193 ●兩浙金石志十八卷補遺一卷 阮元
 194 ●湖北金石詩一卷 嚴觀「連筠簃叢書之一」
 195 ●中州金石記五卷 畢沅「經訓堂叢書之一」
 196 ●山左金石志二十四卷 畢沅阮元「文選樓叢書之一」
 197 ●閩中金石記八卷 畢沅「經訓堂叢書之一」 〈11才〉
 198 ●閩中金石附記一卷 焦汝霖
 199 ●雍州金石記十卷 朱楓
 200 ●粵東金石略十二卷 翁方綱「蘇齋叢書之一」
 201 ●粵東金石略十六卷 阮元「省志內抽印別行」
 202 ●粵西金石略十六卷 謝啓昆 同上
 203 ●滇南古金石錄一卷 阮福
 204 ●常山貞石志二十四卷 沈濤
 205 ●江寧金石考十二卷 嚴觀
 206 ●徑川金石記一卷 趙良灞 統涇川叢書之一
 207 ●金石文鈔八卷 趙紹祖
 208 ●會稽金石志六卷 杜某
 209 ●安陽金石錄二卷 武億「附臬志」
 210 ●偃師金石錄二卷 同上
 211 ●濬縣金石錄二卷 熊象階
 212 ●益都金石記□□卷 段赤亭
 213 ●南漢金石志二卷 吳蘭修 嶺南遺書之一
 214 ●安徽金石文編八卷 趙紹祖
 11ウ

- 215 ● 吳郡金石志[△]□[△]卷 瞿中溶
- 216 ● 嘉定金石文字記四卷 錢大昭 以上二十六種皆有刻本
精審者張之洞云 (12才)
- 217 ※ ● 金石例十卷 元潘昂霄
- 218 ※ ● 墓銘舉例四卷 明王行
- 219 ※ ● 金石要例一卷 清黃宗羲 以上通名金石三例雅雨堂合刻本 小玲瓏山館叢書之一 嘉慶辛未郝懿行重刻本
- 220 ● 誌銘広例二卷 梁玉繩 清白士集之一
- 221 ● 碑版広例十卷 王芭孫 自刻本
- 222 ● 金石例補二卷 郭麐 靈芬館集之一
- 223 ● 漢石例六卷 劉宝楠[△] 山東原刻本 連筠篔叢書之一
- 224 ● 漢魏六朝墓銘墓例四卷 李富孫 別下齋叢書之一
- 225 ● 金石綜例四卷 馮登府 自刻本 (12ウ)
- 226 ● 漢魏六朝志墓金石例三卷附唐人志墓諸例一卷 吳鎬
道光己酉顧氏刻本
- 227 ※ ● 漢魏六朝百三家集一百一十八卷 明張溥 重刻本○以下
雖非金石之書考文正字必備之書故却為可先備
- 228 ※ ● 文紀一百五十九卷 梅鼎祚 目列後
皇霸文紀 西漢文紀 東漢文紀 三国文紀
西晉文紀 宋文紀 齊文紀 梁文紀 陳文紀
北齊文紀 後周文紀 隋文紀 積文紀
- 229 ※ ● 古文苑二十一卷 宋章樵注 明成化壬寅刻本 岱南閣
- 230 叢書之一 守山閣叢書之一
- 231 ● 續古文苑二十卷 清孫星衍 平津館叢書之一 (13才)
- 232 ● 文館詞林四卷 唐許敬宗等 佚存叢書之一 粵雅堂叢書之一
- 233 ※ ● 文苑英華[△]一千卷 宋李昉等 明刻本
- 234 ※ ● 文苑英華[△]一千卷 宋李昉等 明刻本
- 235 ※ ● 文苑英華[△]弁證十卷 彭叔夏 武英殿聚珍版書之一 知不足齋叢書之一
- 236 ● 全唐文一千卷 嘉慶 揚州官本
- 237 ※ ● 唐文粹一百卷 宋姚鉉 明晉藩刻本 明刻小字本 顧広圻校刻大字本
- 238 ● 全唐文紀事一百二十二卷 清陳鴻墀 広州方氏刻本 計百余種
- 239 ○此他清人ノ文集ハ何人ニヨラズ小学金石ノ学ニ必要ノ言多ク見ザルベカラズ備ヘザルベカラザル由張之洞モイヘリ相違ナキ事之由承及候
- 金石類終 (13ウ)
- 文字禪室書目下卷之上
- 類書
- 237 ● 皇覽一卷 魏繆襲 問經堂叢書之一
- 238 ● 北堂書鈔五十五卷 唐虞世南 嚴可均校四録堂本
- 239 ※ ● 北堂書鈔一百六十卷 明陳禹漢刪補本

240 ※ ●藝文類聚一百卷 唐歐陽詢 明仿小字本 明王元貞校大字本

241 ※ ●初学記三十卷 徐堅 明無錫安氏仿宋本 古香齋袖珍十種之一

242 ※ ●白孔六帖一百六卷 白居易 宋孔伝 通行本

243 ※ ●太平御覽一千卷 宋李昉等 鮑校刻宋小字本 張刻大字本 明汪昌序校活字版本

244 ※ ●冊府元龜一千卷 王欽若等 明崇禎李嗣京刻本

計八一種

〈14オ〉

此他淵鑑類函ノ如キ大部ノ者ナレトモ概シテ廢スベシ何トナレバ該書ハ六朝人ヲ漢人トシ宋史ヲ唐書トスルガ如キ糺鏐目ニ滿チ且初明ノ兪安期北堂書鈔藝文類聚初学記白孔六帖ヲ合セ六十冊許ノ一部ノ書トナセリ遺漏滅裂誤字脱句一紙トシテ有ラザルナキニ至レリソレヲ其儘ニテ原本トシ他ノ明人俗謬ノ類書數種ヨリアチコチキリヌキトリアツメテ唐宋以下ノ事文ヲ附シ四百餘卷ノ書トナセシ者ニテ學者社會ニテハ祿ヌス人共ノ編輯トテ鼻ツマム書ナル由東京ニテキケリ四庫提要ニ明ノ三大全ヲ祿ヌス人共ノ書ノ如ク顧炎武ノ言ヲ引キ駁シナガラ類函ニ至リテハ極口ホメアゲタリ本朝ノ事左モアルベキナレドモアカリノスルヤウナ馬鹿ケタ話ナリサルヲ日本ニテモ字典ヤ類函ヲ結構ノ書ノ如クニ思フ者田舎ノ糞學者ノミナラズ都會ニテモ随分ノアル由斯

道ハ如何ナレバ如斯バカリ人ナク不運ノ事ニヤナドノ評モアル由○貞案惡評ハトモカク北堂書鈔等ノ原本及ビ文選文苑英華歷代賦彙咏物詩選之アレバ類函ハ無用ノ書ナルコトハ確ナリ唐宋以下ノ故事ヲ見ルニハ子史精華ヲ勝レリトス併シ必要ナラザルニ似タリ蒙師ハ何如

類書終

〈14ウ〉

文字禪室書目下卷之下

叢書

245 ●漢魏叢書 清王謨刻為最 是ハ上人ニ於テハ較要ナラザルニ似タリ何トナレバ周秦諸子漢魏叢書トイフ次第ニテ流派々々ノ學者共ノ持論著述ニテ小学金石考訂及詩ナドノ事ハ一更ニ之ナク且此ヲ藏スルトキハ張伯行ノ正誼堂全書モ備ヘザルベカラズ

津逮秘書¹⁵

●明毛晉

246 ●古香高袖珍十種 内府刻

248 ●武英殿聚珍版書¹⁶ 一百三十八種 叢書ノ最大ナル者カ

●漢魏遺書鈔 王謨

249 ●二酉堂叢書 張澍 三十六種

250 ●玉函山房叢書 馬国翰 八百餘種

●玉玲瓏閣叢刻 龔翔麟

251 ●沢存堂四種 張士俊

〈15オ〉

- 273 ● 省吾堂彙刻書 蔣光弼
 - 272 ● 學津討原 張海鵬
 - 271 ● 藝海珠塵 吳省蘭
 - 270 ● 惜陰軒叢書 李錫齡
 - 269 ● 漢學堂叢書 黃奭
 - 268 ● 文選樓叢書 阮元
 - 267 ● 士礼居叢書 黃丕烈
 - 266 ● 讀画齋叢書 顧修^マ
 - 265 ● 小玲瓏山跋叢書 馬日璐
 - 264 ● 知不足齋叢書 鮑廷博 後知不足齋叢書 鮑某
 - 263 ● 汗筠簞叢書 秦鑒
 - 262 ● 貸園叢書 周永年李文藻
 - 261 ● 岱南閣叢書 同上
 - 260 ● 平津館叢書 孫星衍 曾香島書庫藏本ヲ見ル奇書佳書甚多シ版式亦極美ナリ
 - 259 ● 抱經堂叢書 盧文弨
 - 258 ● 經訓堂叢書 畢沅 曾一部ヲ見ル版式ノ精朗佳良ナルコトハ無類ノ書ナリ佳種亦タ多シ
 - 257 ● 雅雨堂叢書 盧見曾
 - 256 ● 微波榭遺書¹⁷ 孔繼涵
 - 255 ● 問經堂叢書 孫馮翼
 - 254 ● 棟亭五種 曹寅
- (16オ)

- 293 ● 茆氏輯十種古書¹ 茆魯山
 - 292 ● 佚存叢書 日本刻 重刻
 - 291 ● 海山仙館叢書¹⁹ 潘仕誠
 - 290 ● 觀我生室彙稟 羅士琳
 - 289 ● 粵雅堂叢書 伍崇曜 東京ニテ見聞スルニ極佳書ニシテ其名高キ者ナリ
 - 288 ● 嶺南遺書 伍元薇
 - 287 ● 拜經樓叢書 吳騫
 - 286 ● 涉聞梓旧 同上
 - 285 ● 別下齋叢書 蔣光煦
 - 284 ● 宜稼堂叢書 郁松年
 - 283 ● 半畝園叢書 失名氏 刻其半
 - 282 ● 連筠簞叢書 楊墨林
 - 281 ● 指海 同上 十二集
 - 280 ● 珠叢別錄 同上
 - 279 ● 守山閣叢書 錢熙祚 墨海金壺括在内
 - 278 ● 台州叢書¹⁸ 宋世榮
 - 277 ● 得月簞叢書 榮譽
 - 276 ● 琳琅秘室叢書 胡珽
 - 275 ● 湖海樓叢書 陳春 旧ク舶載シ有名ナル者曾香島書庫ノ本ヲ見タリ
 - 274 ● 借月山房叢書 張海鵬 一名沢古叢鈔
- (17オ)

- 294 ● 五雅⁽²⁰⁾ 明郎刻
 295 ● 百川学海 宋左如圭 三統——— 広———
 296 ● 古今逸史 以下皆明刻校刊未精
 297 ● 鍾評秘書十八種
 298 ● 說郛
 299 ● 稗海
 300 ● 格致叢書
 301 ● 秘冊彙函
 302 ● 宝顏堂秘笈
 303 ● 稽古堂日鈔
 304 ● 古今說海
 305 ● 唐宋叢書⁽²¹⁾
 306 ● 青照堂叢書 以下皆清刻
 307 ● 長恩書室叢書
 308 ● 三長物齋叢書
 309 ● 龍威秘書
 310 ● 心齋十種
 311 ● 棟亭十二種
 312 ● 函海
 313 ● 唐人說薈⁽¹⁸⁾
 314 ● 咫進齋叢書 婦安姚氏 以下三種近時三叢書校刊極精者

〈17ウ〉

- 315 ● 金華叢書 永康胡氏 未其書ハ見ザレドモ有名ナル者ナ
 316 ● 滂熹齋叢書⁽¹⁸⁾ 吳俱潘氏
 317 ● 亭林遺書 顧炎武 以下一人自著叢書 後亭林遺書 掃
 葉山房刻本
 318 ● 音学五書 同上 以下皆佳書精刻
 319 ● 船山遺書 王夫之 曾國藩兄弟ガ尊信シテ刻セシ者ノ由
 兪曲園イヘリ
 320 ● 西河合集⁽²²⁾ 毛奇齡
 321 ● 高文恪公四部彙 高士奇
 322 ● 拜經堂叢刻 臧琳臧庸
 323 ● 望溪全集 方苞
 324 ● 范氏遺書六種 范家相
 325 ● 文道十書 陳景雲
 326 ● 果堂全集 沈彤
 327 ● 杭氏七種 杭世駿
 328 ● 叢陸汪氏遺書 汪師韓
 329 ● 戴氏遺書 戴震
 330 ● 潜研堂全書 錢大昕
 331 ● 蘇齋叢書 翁方綱
 332 ● 燕禧堂五種 任大椿
 333 ● 味經齋遺書 莊存与

〈18ウ〉

〈19オ〉

- 354 ● 李申耆五種 李兆洛
- 353 ● 浮溪精舍叢書 宋翔鳳 是モ至極佳書ノ由ナリ
- 352 ● 茗柯全書 張惠言
- 351 ● 珍藝館遺書 莊述祖
- 350 ● 陳氏叢書 陳逢衡
- 349 ● 焦氏叢書 焦循
- 348 ● 伝経堂叢書 洪頤煊洪震煊
- 347 ● 郝氏遺書 郝懿行
- 346 ● 四録堂類集 嚴可均
- 345 ● 清白士集 梁玉繩
- 344 ● 墨莊遺書 胡承珙
- 343 ● 経韻樓叢書 段玉裁
- 342 ● 劉氏遺書 劉台拱
- 341 ● 高郵王氏五種 王念孫王引之
- 340 ● 授経堂集 武億
- 339 ● 錢氏四種 錢坫
- 338 ● 洪稚存全集 洪亮吉 又名洪北江全集
- 337 ● 東壁遺書 崔述 是レモ昔カラ名高キ者ニテ面白キコト
- 336 ● 孔叢伯遺書八種 孔広林
- 335 ● 鄂軒所箸書 孔広森
- 334 ● 甌北全集 趙翼

〈19ウ〉

- 370 ※ ● 宋詩存 曹庭棟
- 369 ※ ● 宋詩鈔 吳之振
- 368 ※ ● 全唐詩錄 清徐倬
- 367 ※ 御選四朝詩 揚州詩局本
- 366 ※ 御選唐詩
- 365 ※ 御選唐宋詩醇
- 364 ※ 歷代題画詩類
- 363 ※ 佩文齋咏物詩選
- 362 ※ ● 佩文韻府
- 361 ※ ● 駢字類編
- 文字禪室書目附録
- 360 ● 鄂宰四種 王筠
- 359 ● 脩本堂遺書 林伯桐
- 358 ● 求己堂八種 施朝幹
- 357 ● 戚氏遺書 戚学標
- 356 ● 陳氏八種 陳壽祺陳喬樞
- 355 ● 竹柏山房十一種 林春溥

〈20ウ〉

〈21才〉

- 371 ●宋四名家詩鈔 周之麟柴升
 372 宋十五家詩選 陳訐
 373 ※●中州集 金元好問
 374 ※ 河汾諸老詩集 房祺 粵雅堂叢書之一
 375 ※●元詩選 清顧嗣立
 376 ●元詩癸集 唐世臣補刻本 掃葉山房本
 377 宋元名家詩集 明潘仞叔
 378 ※●宋元詩會 清陳倬
 379 ※●明詩綜 朱彝尊
 380 ●明百家詩鈔 魯亮儕
 381 ●●感旧集 王士禎
 382 ※●唐詩紀事 宋計有功
 383 ※●宋詩紀事 清厲鶚
 384 ※●歷代詩話 吳景旭
 385 ※●歷代詩話 何文煥 二十九種アリテ詩話叢書ナリ
 計二十五種
 通計三百六十余部

校異

- 1 『四庫總目』に「爾雅註疏十一卷」に作る。
 4 『書目答問』に「爾雅補郭二卷」に作る。
 9 一般には「学津討源」に作る。

〈21ウ〉

- 17 『書目答問』に「方言注十三卷」に作る。
 21 『四庫總目』に八卷に作る。
 31 一般には「学津討源」に作る。
 43 『四庫總目』に「急就章四卷」に作る。一般には「学津討源」に作る。
 47 『四庫總目』に「說文解字篆韻譜五卷」に作る。
 50 文化十四年刊の官版あり。
 51 『四庫總目』に「五經文字三卷」に作る。『書目答問』に「五經文字一卷附五經文字疑一卷」に作る。文化七年刊(二八一〇)の官版あり。
 52 『四庫總目』に「九經字樣一卷」に作る。文化七年刊(二八一〇)の官版あり。
 57 『四庫總目』に「歷代鐘鼎彝器款識法帖二十卷」に作る。
 59 『書目答問』に「漢隸字原」に作る。
 60 『四庫總目』に「班馬字類五卷」に作る。
 63 元和古活字版(四卷)あり。
 73 『四庫總目』に「字彙」に作る。
 82 『四庫總目』および『書目答問』に「広韻五卷」に作る。
 83 『書目答問』に「広韻五卷」に作る。
 91 一般には「学津討源」に作る。
 94 正保五年刊本(村上平樂寺)あり。
 97 『四庫總目』に「洪武正韻十六卷」に作る。

- 101 『書目答問』に「毛詩古音考六卷」に作る。一般には「学津討源」に作る。
- 103 『四庫総目』に「欽定音韻闡微十八卷」に作る。
- 106 『四庫総目』に「欽定音韻述微三十卷」に作る。
- 115 『四庫総目』に「古韻標準四卷」に作る。
- 126 『書目答問』に「集古録跋尾十卷宋歐陽修目五卷歐陽棐三長物齋合刻本 跋尾附集本」に作る。
- 132 『四庫総目』に「隸釈二十七卷」に作る。
- 134 『四庫総目』に「石刻鋪叙二卷」に作る。
- 149 『四庫総目』に「欽定校正淳化閣帖積文十卷」に作る。
- 156 李光暎の誤り。
- 160 174と重複。『書目答問』に「金石經眼録一卷楮峻図 牛運震説 原刻本 即金石図上卷」に作る。
- 165 『書目答問』に「一百二十七卷」に作る。
- 179 『百漢碑研齋縮摹漢刻目』不分卷（清・萬承紀摹）のこ
と。
- 180 『学古齋金石叢書』（清・葛元煦輯、榮川葛氏学古齋、光緒年間刊）を指すものと思われる。
- 181 『金索』六卷 『石索』六卷（清・馮雲鵬・馮雲鶴同輯、道光元年、崇川馮氏滋陽縣署邃古齋刊本）を指す。
- 184 『書目答問』に「潜研堂金石目跋尾二十五卷」に作る。
- 224 『書目答問』に「漢魏六朝墓銘纂例四卷」に作る。
- 206 『書目答問』に「涇川金石記」に作る。
- 228 『書目答問』に「南齊文紀」に作る。
- 238・239 『書目答問』に「校明初写本北堂書鈔五十五卷唐虞世南 嚴可均校 四録堂本罕見 今通行刻本一百六十卷。乃明陳禹謨刪補者。」に作る。
- 242 『四庫総目』に「白孔六帖一百卷」に作る。
- 272 一般には「学津討源」に作る。
- 306 孔広森の誤り。
- 336 『書目答問』に「授堂集」に作る。
- 340 『書目答問』に「珍藪宦遺書」に作る。
- 351 『書目答問』に「竹柏山房十種」に作る。
- 355 『四庫総目』に「御定駢字類編二百四十卷」に作る。
- 361 『四庫総目』に「御定佩文韻付四百四十四卷」に作る。
- 362 『四庫総目』に「御定佩文齋詠物詩選四百八十六卷」に作る。
- 363 『四庫総目』に「御定題画詩百二十卷」に作る。
- 364 『御選唐宋詩醇』原存十八卷（嘉永四年序・文久二年刊）、『唐宋詩醇抄』六卷、（長允文評・長冰校、明治十五年刊、活版、萬字堂）あり。
- 367 『四庫総目』に「御定四朝詩三百一十二卷」に、「書目答問」に「四朝詩三百一十二卷」に作る。
- 370 『四庫総目』および『書目答問』に「宋百家詩存二十八

「卷」に作る。

371 『書目答問』に「宋四家詩鈔」に作る。

372 文政十年刊本（官版）あり。

377 『宋元名公詩集』のこと。

378 陳焯の誤り。

384・385 『書目答問』に「歴代詩話八十卷呉景旭 何文煥所刻 歴代詩話乃彙刻前人書共二十八種附自箸一種」とある。

〔註〕

(1) 金沢の人、真宗大谷派常福寺の第十四世住職。一八五〇-

一九〇五年。名は祐必のち蒙、号は心泉・雲迸・小雨・月莊・文
字禪室・聴松閣・酒肉和尚など。一八七七〜八三年、清国布教事
務掛として上海別院に勤務。この間、愈曲園『東瀛詩選』の編
纂に岸田吟香とともに関わり、清国の文人達と交流を深める。

一八九八〜一九〇〇年、南京・金陵東文学堂学長。明治を代表
する書家の一人で、北派書風をいち早く我が国に紹介し、明治
二十三年（一八九〇）の第三回内国勸業博覧会に出品し入賞。

おもな参考文献として、以下のものがある。

本岡三郎『北方心泉（人と芸術）』（昭和五十七年、二玄社）

金沢市教育委員会文化財課編『金沢・常福寺歴史資料目録』（金

沢市文化財紀要）147、平成十一年）

金沢市教育委員会文化財課編『金沢・常福寺歴史資料図録』（金

沢市文化財紀要）177、平成十三年）

三田良信監修・山中美智子著『心泉―北方心泉碑文集―北方心泉

没後百年記念』（北方心泉顕彰会、平成十六年）

(2) 川邊雄大「明治期の日本国内における唐本流通について―岸

田吟香書翰を中心に―」（二松学舎大学21世紀COEプログラム・
浙江工商大学日本文化研究所「近現代分科会論文集」）書籍之路
と文化交流、国際学術研究会予稿集、平成十八年）

町泉寿郎・川邊雄大「明治初期における東本願寺布教僧の日中
文化交流について―松本白華・北方心泉を例として―」（南京大
学文学院・人文社会科学高級研究院・域外漢籍研究所『域外漢籍
国際学術研討会論文彙編（上冊）』、平成十九年）

(3) 三宅真軒は嘉永六年（一八五〇）に生まれてから、明治
三十六年（一九〇三）に広島高師に赴任するまでの約五十年間を
金沢で過ごした。名は貞、通称は少太郎、字は子固、松軒のち真
軒・大小廬と号した。

学問は富川春塘・井口犀川・永山玄軒・金子松洞に習っていた
が、犀川歿後は独学を続け、前田家より流出した『四庫提要』を
精読したとされる。

明治八年（一八七五）ごろから同十六年（一八八三）にかけて
益智館という本屋で働いており、真軒の編著が毎年出版されてい
る。明治十六年（一八八三）以降、石川県専門学校・石川県尋常
中学校・第四高等中学校教員を歴任している。

真軒は晩年に東京で前田家の蔵書を整理して、『尊経閣文庫漢
籍分類目録』（昭和八・九年）を編輯したことは知られているが、
金沢時代の明治十七年（一八八四）にはすでに前田家をはじめと
する加賀の藩政時代の蔵書についての目録である『石川県勸業博
物館書目』巻一を編輯している。

明治十八年（一八八五）四月には、漢文科教員の検定試験受
験のため上京している。当時の試験官が島田篁村であり、島田は
彼の学力に驚き、真軒を自宅に招いたという。本資料に「東京二

テ・・・」とあるのは、当時島田等の家で見聞したことを指すものと思われる。

明治三十六年（一九〇三）から大正五年（一九一六）まで広島高師で教鞭を執り、以後は東京に移り前田家の書籍を整理し、無窮会の設立にも関わり講義を行っている。昭和九年（一九三四）歿、享年八十二歳。旧蔵書は現在、無窮会真軒文庫および天淵文庫に所蔵されている。

(4) 『東洋文化』第九十九号（無窮会、平成十九年九月）。

(5) 常福寺に所蔵する扁額「文字禪室記」は、もとは心泉の書斎の廊下に掲げられていたもので、凡そ千四百五十字にもものぼる長文である。末尾に「明治二十年十一月石川三宅貞詰丁亥孟冬為心泉閑士属書清国胡璋」とあり、心泉に求められて真軒が撰し、胡鉄梅が書したものであり、真軒の「小学」や「北碑南帖」に関する考え方をうかがうことができる。

(6) 無窮会天淵文庫所蔵（開架番号二〇九二）、『天淵文庫蔵書目録』（無窮会、昭和三十九年）九二頁。

(7) 註（一）に掲出。

(8) 『金沢・常福寺歴史資料目録』（註1に掲出）、一一二頁、十「草稿—文稿、冊子類（手書きを含む）—」、48。

(9) 「金沢時代の三宅真軒と北方心泉の交流」（註2に掲出）。

(10) 『金沢・常福寺歴史資料目録』（註1に掲出）、一一六頁、十一「書籍」の279『増補抱芳閣書目』・280『醉六堂発兌書籍価目』・281『湖北官書処書目』。

(11) 無窮会天淵文庫所蔵（開架番号二〇八三）、『天淵文庫蔵書目録』（註6に掲出）九二頁。

(12) 真軒の書入れは、書名に○・●・△・▲・□等の印のほか、に、『書目答問』と書名を比較した形跡として、書名の一部が四

角の枠で囲まれていたり、『小学彙函』所収の略号として「小」等の書込みがあり、真軒の対照作業を反映している。

(13) 『書目答問』の版本は数多く出版されているが、真軒は真軒文庫に所蔵する同書（『真軒先生蔵書目録』（註11に掲出）一九一頁、縦二十四・六糎×横十六・八糎、十三行二十五字、光緒刊年自序刊本）から『必備書目』を撰述したものと思われる。

(14) 註（13）に掲出。

(15) この後に、『世徳堂六子』を著録せず。

(16) この後に、『通志堂九経解』・『皇清経解』・『経苑』を著録せず。

(17) この後に、『戴校算経十書』を著録せず。

(18) この後に、『墨海金壺』を著録せず。

(19) この後に、『古経解彙函』・『小学彙函』を著録せず。

(20) この後に、『中都四子』・『周秦十一子』・『呉刻二十子』・『崇徳堂二十子』を著録せず。

(21) この後に、『十子全書』・『武経七書』を著録せず。

(22) この後に、『萬氏経学五書』を著録せず。

(23) この後に、『王氏説文三種』を著録せず。

(24) この後に、『苗氏説文四種』・『六藝堂詩礼七編』・『兪氏叢書』を著録せず。

謝辞 本稿作成にあたり、金沢・常福寺のご住職、北方匡氏ならびにご門徒の方々には、資料の閲覧・撮影等にご高配をいただきました。厚く感謝申し上げます。